

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年2月26日】第74号



木材に親しむ

2月9日(火)、東京農業大学森林総合科学科大林宏也教授に、稲花タイムで授業をしていただきました。稲花タイムとは、農大稲花小の子どもたちが、じっくり体験学習に取り組めるように毎週1回設けられている授業時間です。木材工学がご専門の大林先生は昨年に続き、また、1年生と2年生を対象の出講をお願いしています。今回の授業では、スギの木や合板について学び、造形を楽しみました。大林先生にやさしく、しかし専門的なお話もしていただけるのは、農大稲花小ならではの、です。

秋の入学試験に向けて

中学校や高校の入試が終わり、大学入試も終盤です。東京農業大学中第一高等学校等部でも2,000人を超える多数の応募者があり、人気が高まっているそうです。

東京農業大学第一高等学校中等部 https://www.nodai-1-h.ed.jp/?page_id=89

一方、農大稲花小では今年の秋に向けて、すでに1月15日(金)と16日(土)に第一回学校説明会を行いました。加えて、2月17日(水)に私立小学校受験に携わる教育関係者限定で「2021年度入試報告会」を開催いたしました。私立小学校受験に携わる方々に、本校の教育理念やカリキュラムの特色、さらに本年度入試にご理解をいただくことを目的としたものです。オンラインでの開催となりましたが、多数の方々に参加していただくことができました。

2022年度入試においても、感染防止対策を十分に立てながら適切な入学試験を行います。私立小学校入試は合格がゴールではありません。それぞれのご家庭の教育方針と本校の教育理念が一致していることがまず大切です。受験をお考えの保護者に皆様には、入学後の6年間の学校生活、卒業後の進路などを見据えて、受験についてご検討いただければ幸いです。

春を待ちながら

寒くて霜の降りた朝、通学途中の子どもたちは霜柱に夢中です。キャンパス脇の安全な場所なら、遅刻をしない程度の時間までなら、ということで、子どもたちはそれぞれに霜柱を触って楽しみました。「霜柱を作る方法を知っている」「えーっ、そんなもの 無いよ」と面白い会話も聞かれます。また、正門脇のカシワの木。このところ急に、落葉が進み、子どもたちはその大きな葉っぱを踏んで音を楽しんでいます。カシワは新芽が出るまでは落葉しない性質があります。少し

暖かくなってきたので落葉がはじまったのでしょうか。

さらに、東京農業大学第一高等学校・中等部のグラウンド沿いに植えられている河津桜も咲き始めました。普通の桜は、3月の終わりごろや入学式のころに咲くという話になると、「品種が違うんだ」とさらっと言うのは、さすが農大稲花小の子どもです。



河津桜



カシワの木と葉



霜柱を研究中

間もなく1年

「新型コロナウイルス感染症に関する本校の対応について」を保護者の皆様にご案内したのは、昨年の2月27日(木)のこと。27日夕刻、安倍晋三首相(当時)が全ての小中高等学校ほかに、3月2日から春休みに入るまで臨時休校とするよう要請したことに対応し、2月28日(金)は平常授業、3月2日(月)から臨時休校(一斉臨時休業)としたものです。2019年4月に開校した1期生の子どもたちは、3学期の終業式を経験することもなく春休みとなりました。

本校ではいち早く、休校中の学びを保障するために様々な措置を取り、また、学校再開後は新型コロナウイルス感染防止を第一に教育を行ってきました。1年が経とうとする今、たくさんの我慢を強いられる中、よく頑張ってきた子どもたちに拍手を送りたいと思います。子どもたちを支える保護者の皆様にも感謝するとともに、引き続きの応援をお願いいたします。

校長 夏秋 啓子